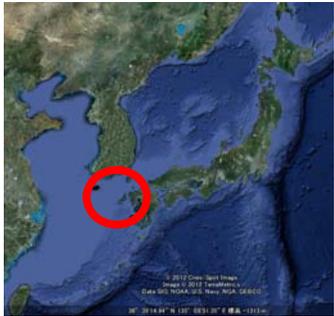


地域ごとの取組事例 (長崎県五島列島)

平成26年3月19日

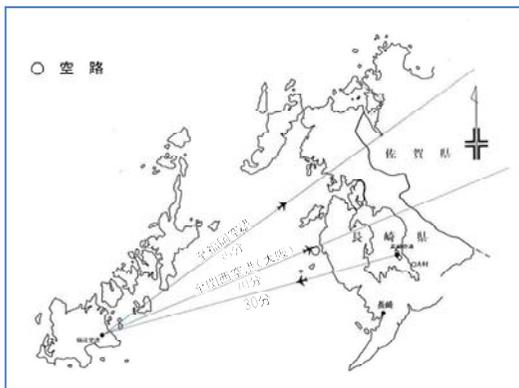
1. プロフィール



■ 列島の地勢

五島列島は九州の最西端に位置し、長崎から西へ五島灘を隔てて約100kmの海上を、西南から北東へ約150km(男女群島を含む)にわたって斜走しています。北側から中通島、若松島、奈留島、久賀島、福江島の五つの大きな島を中心に、129の島(うち有人島18)からなります。

■ アクセス



■ 管内図・行政区域 1市1町



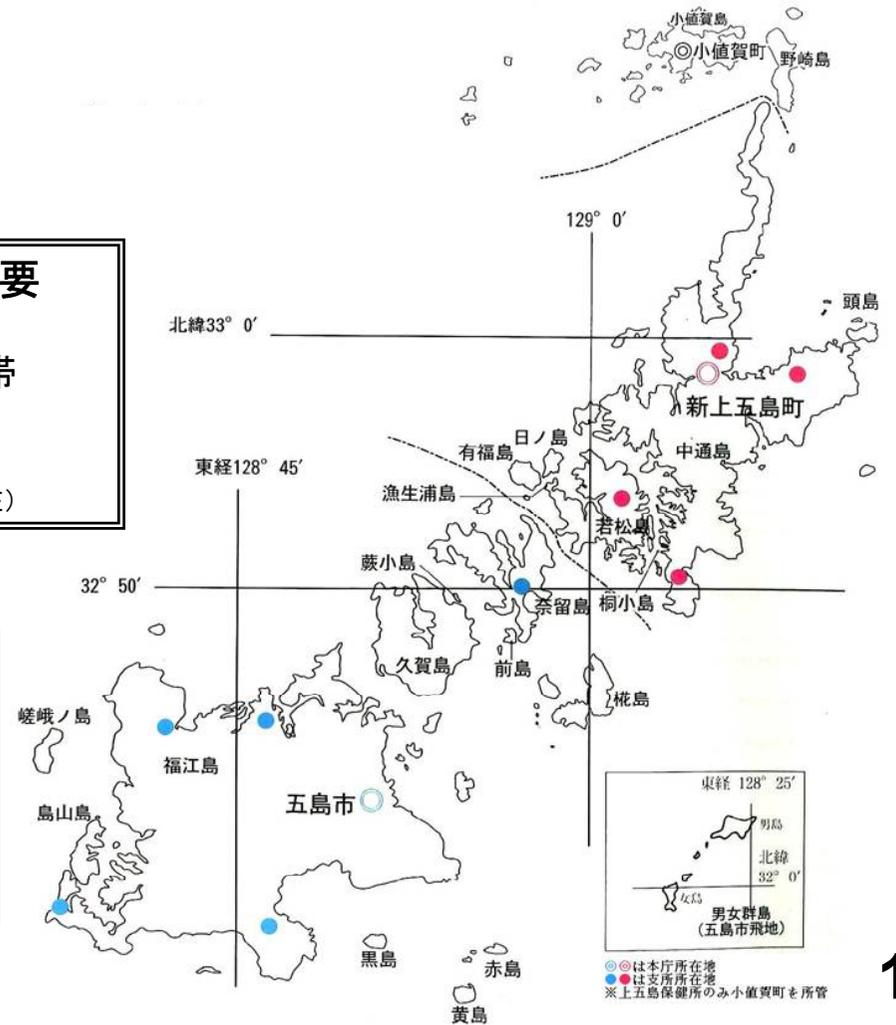
新上五島町の概要

人口 22,093人
世帯数 10,441世帯
(平成25年3月1日現在)
面積 213.98km²
(平成24年10月1日現在)



五島市の概要

人口 40,452人
世帯数 20,375世帯
(平成25年3月末現在)
面積 420.90km²
(平成24年10月1日現在)



■ 優れた自然景観（西海国立公園）

昭和30年に、列島の全域にわたって西海国立公園に指定されています。地形は極めて複雑で火山群を伴う沈降性地壘島群で、多くの溺れ谷をもち、複雑なリアス式海岸線を持ちます。

■ 動植物

五島列島は、ヤブ椿の自生が多く、日本有数の椿の島として有名です。また、ヤブ椿の突然変異種である、濃紅地に白覆輪のコントラストが美しい名花「玉之浦」が発見されたことで知られています。

また、福江島では240種ほどの鳥が確認されています

■ 歴史・文化遺産

遣唐使、倭寇や、世界遺産候補のカトリック教会を含む51の教会群などの歴史・文化遺産に恵まれています。



《大瀬崎断崖と灯台》



《玉之浦椿》



《堂崎教会》



《高浜海水浴場》



《市・町の鳥《メジロ》

■ 農畜産物

肉用牛、野菜、養豚、葉たばこ、米が主要農産物です。特に、長崎和牛は、2012年に開催された第10回全国和牛能力共進会の肉牛部門で、品質日本一となりました。さらに近年は温暖な気候を活かした、ブロッコリー、たかな、中玉トマト等の産地化が進められています。

■ 林産物

木材(ヒノキ)、椿が主要林産物です。特に、つばきの実は全島で収穫されており、椿油の生産量は過去10年間で4度日本一となっています。

■ 水産物

島嶼間における大・小の瀬戸が魚類養殖等の好適漁場を形成しており、魚の回遊が多く、西日本有数の好漁場を形成しています。近年、まぐろの養殖も行われています。

■ 五島手延べうどん

日本三大うどんの一つにもかぞえられる椿油を使用したうどんです。腰の強い乾麺が特徴です。



《葉たばこ》



《中玉トマト》



《五島手延べうどん》



《養殖マグロ》



《五島牛》

3. 島の宝を活用した振興と交流人口拡大への取り組み

■ 椿と教会のしま「五島」プロジェクト

現在、長崎県は、五島市、新上五島町や関係者とともに、五島列島における世界遺産候補となっている教会群や独自のキリシタン文化、遣唐使や捕鯨といった歴史、郷土芸能など、地区それぞれに個性あふれる地域資源を、電気自動車「EV & ITS」や、光ファイバーによる通信網でつなぐとともに、五島椿、五島うどん、巡礼といった共通の素材で売り出すことにより、五島全体としての魅力を高めていく取り組みを推進しています。

■ 3島交流促進プロジェクト

現在、長崎県は、五島列島のみならず、壱岐、対馬3つの島嶼群それぞれの魅力、資源を結び付け「ながさきのしま」として一体的に売り込みを行うことで、情報発信を強化し、島の製品の県内消費拡大等を図るための取り組みを推進しています。

区 分	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24
観光客延べ数（万人）	59.2	59.9	58.9	60.7	60.6
うち五島市	40.1	40.3	39.1	40.7	37.7
うち新上五島町	19.1	19.6	19.8	20.0	22.9
観光消費額（百万円）	10,293	10,408	10,106	10,191	10,630
うち五島市	7,030	7,083	6,747	6,785	6,386
うち新上五島町	3,263	3,325	3,359	3,406	4,244



4. 椿と教会のしま「五島」プロジェクト

現状・課題

しま特有の地域資源

- 日本一の自生椿林(下五島430万本、上五島440万本)
- 世界遺産候補のカトリック教会を含む53の教会群
- 日本3大うどんの一つにも数えられる椿油を使用した五島手延べうどん
- タクシー、レンタカー等にEV、PHVを140台導入
- ITS(高度道路交通システム)の導入

現状・課題

【現状】

- 第一次産業の低迷、高齢化と人口減少、観光産業の低迷、島内産業の疲弊、耕作放棄地の拡大 約2800ha(うち農地利用面積約600ha)
- 全国トップクラスの椿油の生産(20kl/3年平均)→豊凶の差あり
- 手摘みによる椿油の質の良さ(資生堂でも採用)
- 自生椿林の椿油への利用率(2%程度) →大部分が未利用
- 椿油等関連商品売上げ額 約1.2億円
- 五島手延べうどんの流通量は少ない(H22年度生産額 約11億円)
- ITSスポット対応車載器には下・上五島で各10観光ルート登録

【課題】

- 椿油の増産・安定供給
- 自生椿林の活用促進
- 椿の植栽による耕作放棄地の解消
- 耕作放棄地を活用した椿の植栽
- 椿・教会の観光への活用
- 教会の維持管理や観光客受入体制の整備
- キリスト教信仰の歴史に関する資料の収集・保存
- 五島手延べうどんの全国的な知名度の向上と販売促進
- EVとITSを活用した旅行商品の開発
- 五島全体を周遊できる交通体系の連携・整備(海上交通とEV)

目標・取組

古来より島民の生活に密着してきた「椿」や世界遺産候補の「教会群」を有効に活用し、椿関連産業の振興や交流人口の拡大を図る。

【成果目標】 観光消費額 H22年度104億円→H27年度116億円

椿関連商品売上額 H22年度1.2億円→H28年度6億円

【効果】 経済波及効果 27.4億円 就業者誘発数 318人

自生椿林の活用促進と椿苗植栽による椿油の増産

- 五島椿振興公社(仮称)の立上(以下同じ)
- 自生椿林の実態調査(椿マップ作成)
- 作業道・運搬道整備、椿林改良保全
- 椿実回収体制の整備(地域住民参加型)
- 椿苗木増殖事業者育成組織化と椿苗植栽

【取組目標】 自生椿林の利用率 H20-H22年度平均1.4% → H28年度7%(5倍)

椿油生産量 H20-H22年度平均20kl → H28年度100kl(5倍)

耕作放棄地等への椿苗植栽 H22年度末40ha・4万本

→H28年度末160ha・16万本

椿関連の新たな商品の開発と販路拡大

- 食用椿油製品の開発
- 椿油の美容への活用(エステ、化粧品等)
- 椿材による製品開発(炭、ストラップ、バイオマス)
- 土産品の開発(教会・椿関連グッズ等)
- ソーシャルネットワーク等を活用した情報発信
- 椿のオーナー制度実施
- 研究機関による椿成分、搾油技術等研究
- 椿油を使用した五島手延べうどんの販売促進

【取組目標】 椿油の売上額 5倍増加 H22年度1.2億円→H28年度6.0億円

椿と教会を活用した観光プロジェクトの推進

- EVによる五島周遊ツアー-構築(椿、教会)
- ITS情報の充実(椿みどころ、教会の歴史)
- 海外からの巡礼客の誘致(韓国等)
- 椿公園の整備、冬季椿関連イベントの構築
- 観光体験(油絞り、植樹活動、エステ等)
- カメラアソムリエの育成・組織化
- 教会ガイドの有効活用

【取組目標】 国内・海外からの観光客実数の増加

H22年度38万人 →H27年度42万人

5.1 日本一の椿の島づくり

■ 椿による五島列島活性化特区 【平成25年3月29日認定】

＜新たな規制の特例措置等の提案＞ ※関係省庁と協議中
 ○所有者が不明な自生椿林を有効に活用するための使用権の設定
 ○未相続となっている共有農地の利用権設定に係る土地同意要件の緩和
 ○6次産業化推進整備事業に係る事業実施主体の対象拡大 等

■ 椿の本数は約900万本と日本一を誇る規模
 ■ 椿油の生産量は過去10年間で4度の日本一

■ 森林環境の保全
 <自生椿林の整備>



■ 耕作放棄地の解消
 <椿苗の植栽>



■ 地場産業の振興
 <新たな商品開発>



■ 観光産業の振興
 <椿は教会の姉-7>



目標

地域資源である「椿」を活用した地域に根ざした地域密着型の6次産業化のモデルケースを構築する

＜期待される効果＞

○5年後の経済効果...約28億円 ※間接効果を含む
 ○5年後の新たな雇用...180人

5.2 ながさき巡礼の推進

■ 受入態勢整備と旅行商品開発

長崎県では、旅行会社を対象とした観光情報説明会やモニターツアーを実施するとともに、更に、関係市町、関係団体、民間、熊本県と協働で受入態勢整備や旅行商品開発を実施。

《平成25年度主な成果》

- ・五島列島(久賀、奈留島を含む)を周遊する個人対応着地型旅行商品を開発、商品化 等

《平成26年度取組内容(予定)》

- ・交流プログラムの開発、有償おもてなしの開発、着地型旅行商品の造成 等

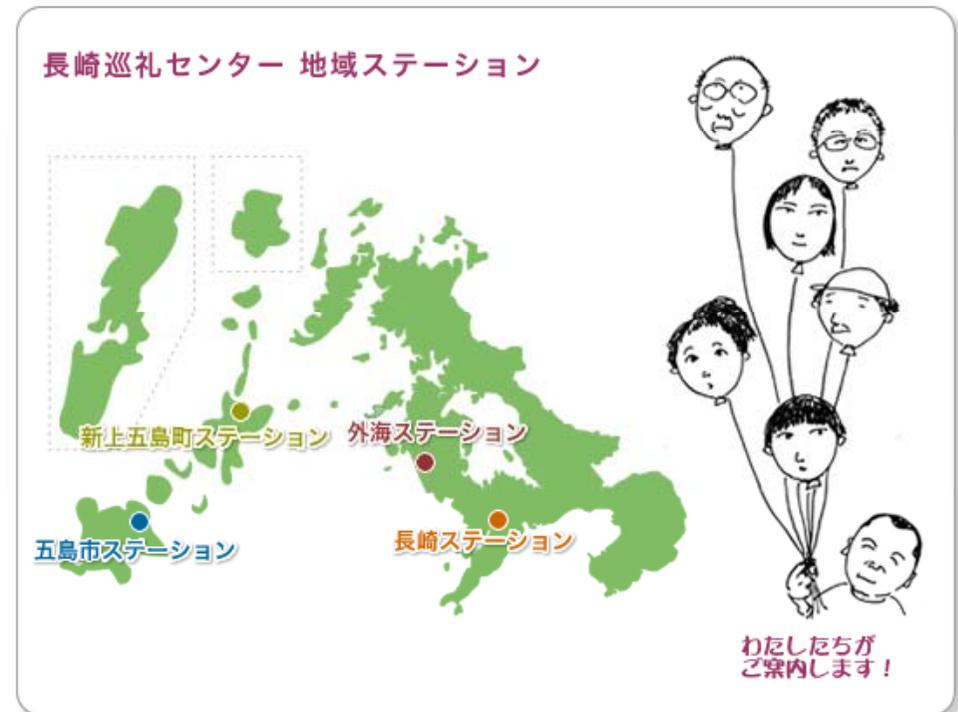


企画協力: 「長崎の教会群」を訪れる祈りと学びの旅プログラム開発協議会 (長崎県、熊本県、県内関係市町及び観光協会、県観光連盟、長崎巡礼センター、長崎チャータートラスト、JTB九州長崎支店 等)

■ ながさき巡礼の拠点整備

(NPO法人)長崎巡礼センター

2007年5月より事業開始、2008年8月NPO法人設立。
2009年10月、県内に4つの地域ステーション設置(長崎市、外海、五島市、新上五島町)



(NPO法人)長崎巡礼センター ホームページより

- ・長崎巡礼センターへの支援 (長崎県)
(巡礼センターの運営、長崎市、五島市、新上五島町の地域ステーションの運営等、広報PRツール作成及び情報発信)

5. 3島交流促進プロジェクト（長崎県のしま旅創出事業）

■しま巡り旅行商品の造成支援

五島列島、壱岐、対馬の3島を巡る旅行商品を造成する旅行会社に対し、広告費への支援、送客数に応じた補助制度を実施。



《平成24年度実績》
・ツアー造成2社、
574人(22回催行)

《平成25年度見込み》
・ツアー造成2社
約600人(21回催行)

期待される効果

新たなテーマ性のある「しま巡り」による周遊型観光の推進により

- ・ 離島地域の観光地としてのイメージアップ、認知度向上
- ・ 旅行商品定着化による交流人口・観光消費額の拡大
- ・ 地元観光関連産業への経済波及効果の増大

成果目標（平成27年度）
・ 3島しまめぐり観光客数 800人
・ 離島への観光船誘致（入港）回数11回

■クルーズ商品の造成支援

県内複数島若しくは離島を含む県内複数港を周遊するクルーズ商品の開発・定着・拡大のため、船会社・旅行会社招聘事業や広告支援等を実施。



《平成24年度実績》
・ 船会社1社、旅行会社1社の招聘事業を実施
・ 離島を含む複数港寄港クルーズの広告支援を実施(1件)

《平成25年度見込み》
・ 船会社1社、旅行会社1社の招聘事業を実施
・ 離島を含む複数港寄港クルーズの広告支援を実施(2件)

※青方漁港岸壁整備により2万トン級の接岸が可能
(H25.2～)

5.4 しまとく通貨

しまとく通貨とは

簡単に言えば、長崎県内の複数のしま市町で共通に使用できる「プレミアム付き商品券」です。長崎県内の複数のしま市町という特定の地域内でのみ流通し、しまの加盟店において商品やサービスの購入ができるものです。しまとく通貨が使用できるしま市町は、次のとおりです。

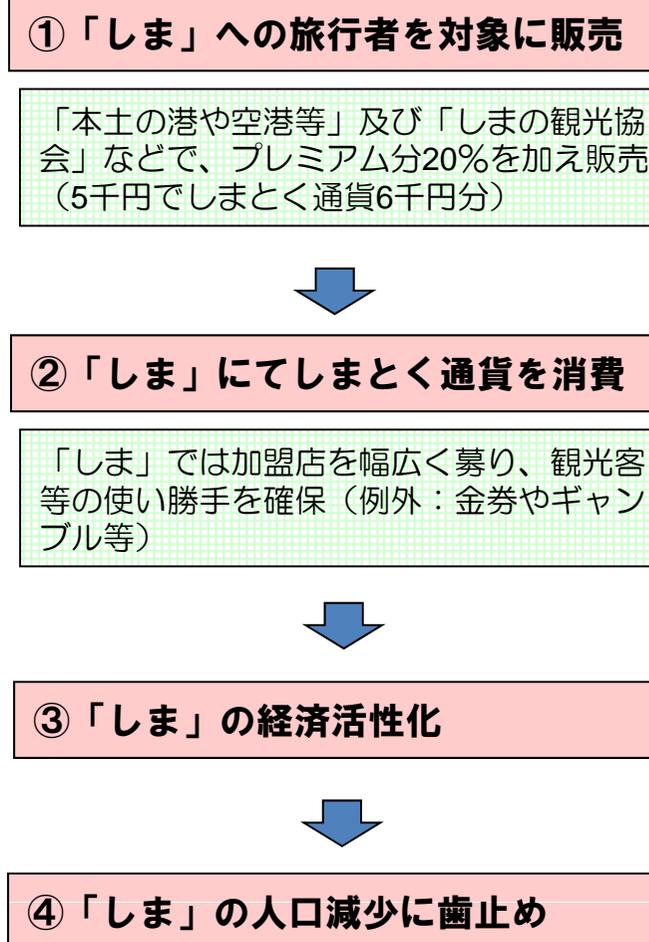
しまとく通貨が使用できるしま市町

- 対馬市
- 小値賀町
- 壱岐市
- 新上五島町
- 五島市
- 佐世保市宇久町



1セット
6,000円分の
“しまとく通貨”を、
5,000円で販売。
20%の
プレミアム

スキーム



6. 再生可能エネルギーの島づくりに向けた構想

○潮流発電や浮体式洋上風力に関するプロジェクトを推進することにより、視察やシンポジウムなどの産業観光としての観光客数増加も期待できる。

潮流発電

JMEC候補海域

奈留島

久賀島

柁島

福江 Fukue



浮体式洋上風力発電